

「朝鮮半島と日本列島の使命」出版



人間自然科学研究所

(財)人間自然科学研究所がこのほど、書籍「朝鮮半島と日本列島の使命」を刊行した。山陰地区の書店などで販売されている。同書は、小松電機産業株式会社の社長で、同研究所の小松昭夫理事長が「竹島の日や、応仁の乱のきっかけとなる御霊合戦が行われ

た目であることからの歴史的背景を踏まえ、歴史的に見ても時代の変り目になる日」と位置付ける。二月二十日に刊行。同社の歴史、経営理念や、中国や韓国の人材に学ぶなど、記者、座談会の模様、ラフカディオ・ハーンが書いた論説記事、小泉凡氏の寄稿文など、小松氏が語る「対立から統合、発展へと繋がる『和』文化の社会の実現へのエッセンス」を散りばめている。同氏は「日本は、世界中から注目されている。この国が内部崩壊を起すのか、発展のスタートとなるのか。そして我々一人ひとりが人間の基本的要件を満たしているのかを問われている。原発そして竹島の問題を抱えている。この島根から知恵、勇気をこぼり、行動で世界に『和』文化の発信をするタイムリミットとしては、今しかない」と話し、「朝鮮半島の二カ国に日本を加えた三カ国が手を取り合い、非核、平和を築く地域を作り上げるのが、我々の義務であり、責任であると考えている。そのメッセージを、この本を通して伝えていきたい」と語る。

同書はA5判、百八十四ページ。税込価格千五百円。問い合わせは財団法人自然科学研究所(電話0852・21・8420)まで。

2011.5.20 島根日日新聞